

山武郡市議会議員研修会

分権時代の議会の役割

早稲田大学大学院教授
北川正恭氏による講演が行われた

去る7月4日、成東文化会館「のぎくプラザ」にて山武郡市議会議員研修会が開催され、早稲田大学大学院教授北川正恭先生による講演がございました。

北川先生は、三重県議会議員、衆議院議員を経た後、三重県知事を2期歴任され、現在では早稲田大学大学院公共経営研究科教授を務められております。知事時代は、いち早く「ローカル・マニフェスト」を提言するなど、「改革派知事」として地方行政改革に取り組まれ、近年ではそのご経験を活かし、テレビのコメンテーター等でもご活躍されております。

その北川先生の今回の講演テーマは「分権時代の議会の役割」でした。北川先生は、中央集権体制の制度疲労に対応するために地方分権一括法（2000年施行）が作られ法律上は地方分権が一定程度進んだことを指摘され、その上で、地方が国と対等の立場で地域住民のニーズにあった政策を自ら決定し実行していくといった真の地方分権を実現するには、住民、行政、議会の意識が肝要だと力説されました。

また、地方分権の具体的な取り組みとして、徳島県上勝町の事例を挙げられていました。同町は昭和56年に寒波による主要産業の枯渇という未曾有の危機を経験しましたが、その後、地域資源たる葉っぱ（つまもの）を中心にした町ぐるみの地域ビジネスを展開しているとのこと、町全体で知恵を絞って地域再生に取り組む分権型社会における課題取組みの好例として紹介されていきました。

北川先生の指摘されるように、法律等によっていく



あいさつをする鈴木議長

ら制度が整備されても地方分権の担い手たる執行部や議会、住民の意識が変わらなければ地方分権は画餅となってしまうでしょう。しかし、このことは、逆に言うと、我々の意識次第で町も変革していくことが可能であるということです。

今回は、分権型社会における我々地方議会議員の役割の大きさを再認識するとともに、北川先生より勇気とエールを頂いた講演となりました。

以上、ご多忙の折講演をさせて頂いた北川正恭先生に感謝申し上げます。このような貴重な機会をつくって頂いた山武郡市議会議員研修会事務局の方々に御礼を申し上げ、山武郡市議会議員研修会の報告とさせていただきます。

広報委員 齋藤順一

編集後記

いつも議会だよりをご覧いただき大変にありがとうございます。広報委員一同、心を込めて、見やすく、読みやすい紙面を目指し編集に取り組んでおります。今後とも、より多くの町民の皆様にご覧いただける議会だよりとなるよう努力をいたしてまいります。また、紙面では限界があり、全てを伝えきれません。白熱した議論の様子や議場の緊張感など、ぜひ議会を傍聴にお越しください。

平成18年3月27日に産声をあげた横芝光町も、早6年が過ぎました。国も地方も改革を通じて政治の立て直しは避けて通れません。今こそ智慧を出し合い、住民直結の政治姿勢を堅持し、町民が求める町政の確立へ本領を発揮すべき時と考えます。

議会は「批判・監視の府」といわれ、議員は生活環境権を守り、質問をとおして行政の執行ぶりを批判し、事務・事業の管理・議決の執行、出納、政策を論じ合い、正し、補い、公正にして能率のよい行政を確保するよう、住民の期待に応え、一層の地域社会の発展に寄与貢献しなければなりません。現在、安全安心なまちづくり、協働のまちづくり、活性化等にむけ足音を立てながら前進しております。

広報委員 川島富士子